

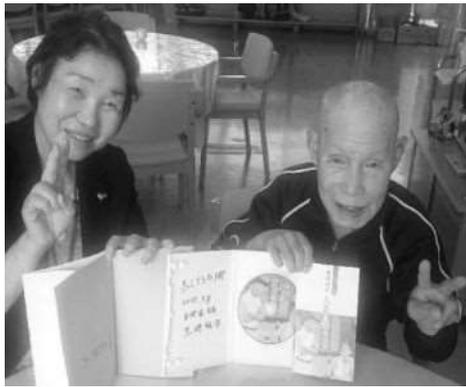
# ふくろう新聞

<発行>

ホーム郷会  
老人の委員  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろう報  
洲本市中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

## 人としての尊厳・人権を 取り戻したい

### 前講座 戦中と戦後70年を どう生きたか



関西看護医療大学 大坪みゆき先生と

7月22日 尼崎市の「あぜくら作業所」が「きようされん全国大会・神戸」の事前研修を計画、ふくろう自治会の黒崎時安会長や竹邊正晴さんが招かれて自らの人生を語りました。黒崎さんは、字が読み書きできない奴は雇えないとどこも雇ってくれなかったこと、刑務所に5回も入れられたり、果てはやくざに拾われた人生など淡々と語り

ました。

同行した大矢施設長は、「ろう者なんか産んで何の役に立つか」と母を責めぬいて病死に追いやった黒崎さんの、父への深い憎しみ、父を悪魔にしたのはだれか、何がそうさせたのか。「安らかな時間を育て」と命名した両親が、時安少年を地獄に突き落とすはずがない。しかしその父を歪めたのは何なのか。

突き詰めていったとき、だから私たちに憲法9条と25条と、更には21世紀の今、障害者権利条約が必要になったのだと結びつきました。最後に「学びあい文庫」として完成したDVDや冊子を是非とも手に取って欲しいと要請しました。

八月には神戸市ろうあ協会北区、九月には立命館大学石倉ゼミの学生さんたちとの学びあいが予定されています。

学びあいの場「出前講座」の計画をお待ちしています。

私たちが田中登美子様の訃報を知ったのは7月22日のことでした。田中様は淡路聴覚障害者センター開催の講話講座を受講、そこで知り合った仲間とともに書道講座のボランティアとして数年にわたり、毎月ふくろうにお越しになっておられました。そんな田中様がふいにふくろうにお越しになったのが7月8日。200万円もの寄附を持って、「書道ボランティアは私の人生を豊かにしてくれました」そのお言葉と、凛としたお姿は忘れられることはできません。ご冥福をお祈りします。

### 生きる「こ」への問いかけ

差別社会の荒波にもまれながらも必死に生きてこられた黒崎さん。このDVDは私たちに生きる力を与え、生きることとは何なのかと問いかけています。また、彼が生きてきた道を語るところどころによりよい社会をつくるために現在の私たちが何をすべきなのか訴えています。みなさんもぜひとも黒崎さんの「人生を語る」DVDを見ていただき、ろう者の生活を知り、手話はだれのためにあるのか、住みよい社会とはどのような社会なのか考えるきっかけになってほしいと思います。(淡路聴覚障害者協会・中島長司さん)

### まなびあい文庫へのご意見

繋がりと信頼が築けてこそ語れるろう者としての不自由と数々の

差別を乗り越えてきた黒崎さん。大阪の思い出の地に立ち、思い出したかのように手話で伝える黒崎さんの表情から、平和を願う無数のメッセージが発せられているように思います。戦後の想像を超える厳しい時代を生き抜き、人にも言えない人生体験を語る黒崎さん。それは、淡路ふくろうの郷での安心できる生活を通じて、多くのひとの繋がりが、ひとの信頼があつて語ることができのだと思います。黒崎さんの無数のメッセージに、私が応えられるのは、好きな釣りにできるかぎり同行すること。そして身振り手振りのコミュニケーションで美味しいコーヒーや食事をする。そして、何よりも、高齢者に理不尽な苦しみを押しつける政治から「すべての人に豊かな老いを」「平和な社会と誰もが安心して暮らす老人福祉」を実現するためにがんばることだとあらためて思いました。いつまでもお元氣な黒崎さんに出会えることを楽しみにしています。(大阪 特養いのこの里・中村公三さん)

# 平和の礎が壊されない

## 聾哑産業

### 兵士

## 中村正一さんを偲ぶ

## 世の中を

今年も暑い暑い八月を迎えました。大正6年生まれの中村正一さんが九十七年間の生涯で最も苦しく辛かったと語られたのは、他でもない軍需工場・尼崎精工での「應徴士」「聾哑産業兵士」と話されていきました。それは、戦後70年を強く生き抜かれた中村さんの私たちへの遺言でもあったのです。



当時の尼崎精工全景（ふくろう新聞2012年8月72号）より



昭和19年2月5日  
右：土居正一  
左：中村正一

▲土居正一氏（姉文子さんの夫）と中村正一氏  
松山聾学校教員から聾哑産業兵士に 尼崎精工で



昭和18年4月12日 尼崎精工株式会社  
第一ヨリ第九工場優勝旗競シテ第二工場ニテ一番勝ち  
(タレーツト競争) 聾哑者皆揃ツテ掲ルコト

聾哑者 九十人数 中村正一二十七才

▲生産競争に優勝した第二工場の聾哑産業兵士90名



◀ ”尼崎“の手話を表す正一さん  
「戦争は二度としてはならない」  
平成15年新年互礼会にて

## 中村正一氏略歴

- 0歳 大正6年12月5日 京都市下京区で誕生
- 10歳 大正15年4月 京都市立聾哑学校初等部入学
- 18歳 昭和9年3月 京都府立聾哑学校中等部卒業（京都府に移管）福田洋裁店に住込みで入店（白衣縫製）
- 27歳 昭和18年3月 尼崎精工に應徴 聾哑者産業兵士として信管の製造第二工場に配属 大阪市東淀川淡路の姉文子夫婦の家から通勤
- 29歳 昭和20年4月 結婚 神戸市に借家 空襲にて借家全焼 芦屋に借家
- 6月15日 B 29焼夷弾 尼崎精工全焼被災 聾哑同僚死亡 陸軍の出版社命令書にて会社に出頭するも軍人の姿なし 工場壊滅的被害で解散
- 97歳 平成27年7月9日 永眠

要介護2

福島豊子様の

生活から考える

平成18年に当時一緒に生活をされていた猫と一緒に、ふくろうの郷に入所されました。

入所後は、キッチンで料理をしたり、職員のお手伝いもよくしてくださいました。また、タクシーを利用し、買い物に出かけられる時もありました。しかし、ふくろうの郷で生活される中で、神戸に戻って一人暮らしをしたい、との気持ちが大きくなり、ご本人と相談した結果、神戸に戻られることになりました。

神戸で暮らすにあたり、ふくろうの郷の職員とひようご聴覚障害者介護支援センターの職員が連携し、住む場所を探すことになりましたが、高齢のろうあ者であることを理由に、断られることが多くありました。

やっとの思いで、住む場所が決まり、ヘルパーの支援で新しい生活が始まった福島さんでしたが、隣人とのトラブルが続き、地域での生活が難しくなり、再び、ふくろうの郷で生活されることになりました。

福島さんが地域で生活したい気持ちを持たれていても、周囲の理解がないと地域での生活が難しいのが、現状です。ろうあ者への理解や支援が必要であることを改めて考えさせられました。そして、ふくろうの郷の存在意義を大きく感じました。

現在福島さんは、毎朝朝の会に参加され他の入居者と一緒に体操をしたり、ちぎり絵の屏風作りに熱心に取り組まれています。福島さんにふくろうの郷での生活についてお聞きすると、「ここは手話で話ができるので、安心できる」と話されました。神戸での顔なじみの方と一緒に講座に参加されている姿も見かけられます。

これからもふくろうの郷が福島さんにとって、生活の楽しみを持ちながら、安心できる場所であるように、支援を続けたいと思います。



中川原地域交流会主催 恒例の流しそうめん

今年も夏本番に入る7月19日に涼を感じながら入居者のみなさま地域交流会の皆様方のご協力を得まして「流しそうめん」を開催しました。「そうめんをあまり食べないので」と、おっしゃっていた入居

者の方も雰囲気からか、はしと器を手に取ると、楽しそうに流れてしそうめんを使う竹が組まれてゆきました。この日は、滋賀県ろうあ協会青

座に、細い竹を3本組んで支える足台を作りそこに固定し、安定されたこと参加者のみなさまに流れてくるそうめんをすくいやすい配慮

をいただきました。年々改良を加え、楽しんで食べますので、来年もまた多くの方に楽しんでいただける取り組みに

ていきたいと思えます。

地域交流会の皆様、今年も参加・ご協力ありがとうございました。



**淡路聴覚障害者  
センター** 便り

吉田 光重さん (66歳)  
旧北淡町生まれの先天性  
ろうあ者です。7歳の時に  
淡路ろう学校小学部に入  
学。自宅から学校まで遠か  
ったので寄宿舎で生活して  
いました。ろう学校では手  
話はなく口話だけで何を言  
っているのかわからず勉強に  
もついていけなかったこと  
もあり、島外にある高等部  
には進学しませんでした。

洲本市港2-26  
洲本市健康福祉館3階

**学校卒業後も家族と  
離れ住込みで仕事**

卒業後は、実家に戻り、農業の手伝いをされています。家族とも会話やコミュニケーションが上手に取れずに孤立していました。当時の民生委員さんが見かねて、自分が経営している養鶏場に住み込みで雇用。20年ほど養鶏の仕事に励まれるのですが、残念にも廃業となり、同じ場所に水産

**今までがむしろ仲間に働いてきた。これからほうろろ者仲間との交流も深めたい。**

加工会社ができ吉田さんは現在もその水産加工会社で働かれています。

**同障害者との交流  
なく**

北淡ではちりめん漁が盛んです。吉田さんの勤めている水産会社もシーズンになるととても忙しくなり、吉田さんは一人前の戦力とされ働いています。職場では同僚と一緒に昼食を食べ、身振りや筆談でコミュニケーションをとっています。センターとは年に数回家庭訪問や職場訪問の時に顔を合せお話を伺ったり社会生活教室への参加をお誘いしていました。しかし、ろう協やセンターの行事には休みが合えば、参加される程度でした。

**おのころの家への  
通所きっかけに仲  
間と交流**

センターとして、ろう者仲間との交流を持って欲しいとおのころの家の通所を勧めていましたが、なかなか実現しませんでした。そんな



▲おのころの家で玉ねぎの出荷作業する吉田さん

中、2年前の実態調査の際に吉田さんを支援くださったついでに当時の民生委員のお孫さんにあたる方とお会いでき、その際、「今までがむしろ仲間に働いてきたが、これからはろう者仲間との交流やその中で学んでほしい」と思っている。同障害者集まる場があるなら彼に勧めてほしい」とのお話がありました。そして、職場と相談していたが、繁忙期の通所は難しいが、落ち着けば通えると話され、今年4月からおのころの家に週1回の通所を始めました。

「農作業しながら仲間と交流できとても楽しい」と吉田さん。おのころの家では、男性陣が中心となり、屋外の草刈りや畑作業を行っており、自慢の体力とパワーを発揮されています。仲間と一緒にこれから第二の人生をスタートさせたと話します。

**相続のこと学びましょう!!**

第4回社会生活教室 7月12日  
場所 おのころの家



▲講師の小牧弁護士

自分の家族が亡くなったとき、誰もが経験する相続。手続きはどんなものであるのか、また自分が亡くなった時にどのようなしたいのかを考へる機会とするため「財産管理と相続のおはなし」と題して法人の顧問弁護士小牧英夫氏にお話しいただきました。「両親が遺産相続について話さず、自分が思っている話と違うが自分でもきちんと話を聞きたい」「自分が亡くなった後の遺産分与についてはきちんと公証役場で手続きを済ませてある」と参加者から感想をいただきました。今後身近なテーマを取り上げて学習する機会を作っていければと思います。

**ろう者が誇りをもって生活できる淡路島をめざして・・・**  
～淡路市手話言語条例制定に期待～

**8月9日、淡路市で検討委員会始まる**

昨年2月に淡路聴覚障害者協会、手話サークルなど4団体で淡路島内3市に要望していたところ、淡路市として市合併10周年記念事業の目玉として制定したい、との返答をいただき、8月から検討委員会がスタートすることになりました。島内先頭を切つての言語条例です。ろう者、サークルなど中味を充実したものに、との思いも強く、作業委員会を立ち上げ勉強を行っています。すでに成立した手話言語条例は手話の普及に重きがおかれがちですが、手話の普及だけでは意味がありません。ろう者が生きいきと尊厳をもって聞こえる人たちと連帯でき、社会参加がすすむ施策を盛り込んだ内容になるよう大いに期待したいものです。

また、洲本市、南あわじ市も早急に制定をめざし、動きを進めてほしいものです。

### 中川原高齢者・障がい者地域

### ふれあいセンター



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

### 中川原地域ふれあいセンター

### 夏祭り

7月10日(金)、ふれあいセンターで夏祭りが開かれまし  
た。中川原保育所や中川原小  
学校の子ども達、中川原地域  
の方々、おのころの家や桜ヶ  
丘デイサービスの通所者約  
100名が参加しました。



『しゃぼん玉』で遊ぶ子ども達

7月14日より利用者が新しく1名増え、4名に  
なりました。最初は心配な面もありましたが、利  
用者の皆さんのコミュニケーションの様子を見  
て安心しました。また、クッキーの製造時等、既  
存の利用者の皆さんが率先して教え、お互いに協  
力し合いながら作業をしています。  
今後、個々の特性を生かし、仕事の幅を広げる  
援助をもっと磨きたいです。(職業指導員 山田)



「流しめん」子どもから大人まで無理なく楽しめる様子

今年の目玉は、『流しめん』。地域の方が竹藪から  
立派な竹を切ってきて、みんながケガをしないように研  
いでくれました。子どもから大人まで無理なく楽しめる  
ように3パターンの高さの  
台座まで手作りして下さい  
ました。前日には「男性料理  
講座」や、ふれあいセンター  
のコーデイネーターの方が  
来て、玄関先に日差し避けの  
テントをしてくれたり、そう  
めんがスムーズに流れる  
か?と色々と準備をして下



中川原保育園の子どもの歌披露

さったお蔭で、参加者は『流  
しめん』を思う存分楽し  
みました。屋外では、『しゃぼ  
ん玉』で遊ぶ事も出来ました。  
青空に大きな『しゃぼん玉』  
が高く揚がっていく様子を高  
齢者と子供達が見つめ喜び合  
う姿は、夏の日差しより眩し  
く輝いていました。屋外で楽  
しんだ後は涼しい所へ移動し  
て、世代に関係なくゲームを  
して大盛り上がり。この夏の  
良い思い出になりました。  
(支援員 樋口)

### 「バーベキュー」

### 海辺の大浜公園で

### おのころの家

7月21日(火)「海辺でバーベ  
キューがしたい」との仲間た  
ちからの希望で、洲本市のき  
れいな大浜公園で実現しまし  
た。参加者30名。

「炭いこった」と男性班、  
「まだ材料準備できていな  
い」と若き女性班。事前に決  
めた担当で準備が始まり、実  
行委員長山野さん(89)から「み  
んなで楽しく食べましょう」  
と開始。「この肉焼ける」「海  
辺で食べるとおいしいな」と  
会話が弾みます。10時から14  
時30分まで食べてスイカ割り  
してゆつくり過ごし、多くの  
海水浴客の中で、夏を感じる  
ひと時になりました。(藤崎)

BBQの調理をする女性担当



火おこしする男性担当

### ～ 研修を終えて ～

7月28日(火)、29日(水)  
2日間の研修で、普段の学校勤務  
では経験することのできない貴重  
な時間を過ごさせていただきました。  
2日間を通して送迎車に  
乗せていただき利用者の方をお  
迎えに行くと笑顔で車に乗り込  
まれていたのがとても印象的で  
楽しく通われているのだという  
ことが伝わってきました。仕事が  
始まると自分たちの仕事を一生  
懸命、教え合いながら、また初め  
てでわからない私にも手話や指  
文字、空書などを使い教えてくだ  
さりながらこなされていました。  
言語のひとつである手話に触れ、  
しっかり顔を合わせてコミュニ  
ケーションをとる大切さと楽し  
さを学んだ2日間でした。  
洲本市立大野小学校 四丸千尋

# 続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.13

北岡 肇

## ⑤ 才蔵さんをまつる

三木田の

お地蔵さん(その2)

才蔵さんが捕えられ翌天明3年(1783)2月地獄原で露と消えましたが、お上の目つけが厳しく才蔵さんの名前を入れることを恐れて、翌天明4年「お地蔵」さんを造り建てたのがこのお地蔵さんということです。

百姓農民を、「命をかけて救った」宮村の才蔵「世に淡路の「繩騒動」と言われています。書けば長くなりますので広田村(現南あわじ市)大宮寺裏山にあります「天明志士記念碑」の碑文(洲本市史)を紹介して、この項を終わります。

(以下、抜粋)

淡州に両志士あり、才蔵といい、清左「衛門」という。共に三原郡広田村の人で、民衆に代わつて死刑となる。時は天明二年のことであった。(中略)当時阿波領主蜂須賀氏が淡路をも治め、仁尾氏を遣わし執政とした。しかし仁尾氏は民の苦しみを親しく知らず下情上達せず、姦臣汚吏はほしきままに政治を切り廻し、新に繩

税を徴収した。(中略)両志士は憤慨し、こっそりと同志を集め義を唱え、広田八幡祠前に事をあげた。楠之助、貞平および力士楓山以下数千人これに従った。領主はこれを聞き早速役人に命令して、百姓達を慰撫した詰った。才蔵、清左衛門の二人が前に出て答へ「私共は敢えて事をかまえるものでないが、賤商兵六というものが、君の下役人坂東某、高田某等と謀つて勢力をひろげ、酒色をもつて執政を誘惑し人民を搾取し、人民は疲労の域に達している。私どもは気家に事あらば、いつでも生命を賭する覚悟でいるが、彼らは名を公賦に託して、ほしきままに私利を営み、あくことを知らない。われわれの今日の行動は、万已むを得ない手段をとつたまでである。上司の者は、これを公正に裁判してくれ」役人は状を具し領主に上申したところ大いに驚いて、急に使を遣わし執政以下の罪を糺し、新法を皆廃止して旧に復し、そして人民の罪を問わない方針であったが、刑吏はすでに法の定める所によって、両士を刑してさらし首にまでした。

力士楓山は夜ひそかに首をもとめてこれを葬り、才蔵の遺子文五郎を助け、貞平もまた清左衛門の子林作を助けその後を経理、楠之助は遂に獄中で死んだ。人民は皆これを無実の罪として、両志士の墓の祭祀を春秋おこたらない。

## 職員募集

平成28年度職員採用試験の概要をお知らせします。

○募集職種…看護職(正看護師、准看護師)、介護職(介護福祉士、社会福祉士、ホームヘルパー2級、無資格)、調理職(調理師)

○正職員の給与…基本給:高校卒 154,400円、大学卒 174,200円、正看護師 219,000円 賞与:年2回 年3.5ヶ月分(2014年実績)

○休日休暇…週休2日制(年間104日)、リフレッシュ休暇(15日)、年次有給休暇(初年度10日)、その他特別休暇あり

○採用試験…平成27年9月20日

○応募方法…履歴書、小論文「淡路ふくろうの郷で私ができること、実現したいこと」1000字以内を9月10日必着で

(社福)ひょうご聴覚障害者福祉事業協会

TEL/0799-25-8550 FAX/0799-25-8551 (担当:橋詰)

## 8/1 淡路島まつりで 阿波おどり



▲地域交流会、ボランティアの皆さまのおかげで、今年もまつりを楽しめました。ありがとうございました。